

好きだから伝えたい
違うから面白い

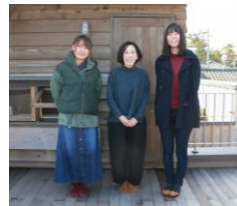
なかじま りさ

中嶋梨沙さん

1981年生まれ。愛知県出身。日本福祉大学を卒業後、結婚を期に新潟へ引越す。福祉ユニット、福祉プロダクトの雑貨屋運営を経て2018年から「ちらちら」という3人のユニットで筆談カフェなどの企画を行なっている。現在は家族3人暮らしをマイペースに楽しみながら自分らしい活動を模索する日々。

ご自宅の屋上が
すてきでした！

福祉への原点



高校生の頃に、福祉作業所で作っている製品を扱う雑貨屋のようなことがしたいと思い、福祉系の大学に進んだ中嶋梨沙さん。「小学生の頃に親た福祉作業所で、通所者が手間暇かけて作った製品がバザーでたった10円で売られているのを見たんです。思えばその時に福祉に興味を持ち始めたのかな」。

大学卒業後は「子供と関わりたい」と特別支援学校に8年間勤務しましたが、だんだんと子供達が学校卒業後に行くことになる福祉作業所に思いが向いてきました。「といっても、学校勤務が長く、福祉作業所のこととは分らないことも多いので、新しいことや面白いことをやっている全国の福祉作業所を回ってみました」。「その訪問数は二十か所以上」。「新潟でもできるのでは」と手ごたえを感じ始

めた中嶋さんは、いろいろな人に全国の福祉作業所の先進事例を話しました。そのうちにデザインのできる仲間が見つかり、「福祉プロダクト企画販売ユニット」を立ち上げることになりました。

「全国にはデザインの方で商品価値を上げた事例がたくさんあったんです。それを新潟の福祉作業所にも伝えたい、と見せ方や作り方を一緒に企画しました」。ユニットの活動は、中嶋さんが出産するまでの約4年間続きました。

直接話して 伝えること

ユニットの解散後、子育てに専念を：と思っていた時知人から「お店が空くから借りない？」と声を掛けられ、中嶋さんの中にあつた「魅力的な製品を直接手に取って見られる場があったら」という思いに火が点きました。その後、築百年の長屋で新たな福祉プロダクト・クラブのお店「スイモン」を開店。「どうやって作られたか、誰が作ったかというストーリーがわかると、福祉作業所の製品はより良く見てもらえるんです」。

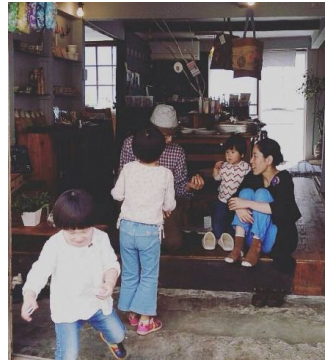
スイモンではそれを直接話して販売して
きました。ちょっとプレゼントを渡す
ときにも、その製品について話せるス
トリーがあるといいでしょ？。中嶋さん
からは次々と製品の「面白話」が出てき
ます

人がつながりやすい新潟

中嶋さんは愛知県県の出身。学生時代に
知り合った夫との結婚を機に新潟へ移住
しました。新潟の人については「仲良
くなるのに時間がかかるけれど、一度仲良
くなるとそのあとずっと仲良くしてくれ
る」という印象を持っています。

「コミュニティが小さいから、一人仲良
くなると辛づる式にいろんな人と知り合
いになれるのは、県外出身の私にはとて
もありがたいです。だから今までも人か
ら人につながって事業をやったりこれら
れのかも」とこれまでを振り返り、今でも
そのつながりがさまざまな場面で生きて
きていると話します。

子育てについても「ちょうどスイモン
を始めたころだったから、自分がかけ
なくてもお店の人が来てくれることがよ
かった」と、人とのつながりに感謝して
います。「福祉の現場が良かったことも
あり、自分の子供は自分の思い通りにな
らないということが頭ではよくわかって
いても、時にはイライラしてしまうこと
もあります。そんなときは、人とのつな
がりのおかげで少し楽になれたかな」と
振り返りました。



いろいろな人がいる安心感。違いを楽しめば、壁もなくなっていく

「好き」がまった福祉との
関わり方を変えながら

状況や環境によって関わり方を変えながら、
福祉のスペシャリストとして働いてきた中嶋
さん。その原動力は「福祉に関わる人や空
気が好きだ」という気持ち」と言います。

「一般の会社勤めだと、いろんな決まりに
しばられてしまうことがある。でも、福祉施
設はそうじゃない。職員が利用者のことを考
えて常に工夫しているだけでなく、職員と利
用者との関係性そのものが素敵で、障がいの
あるなしに関わらずいろんな人がいるとい
う安心感があるんです。そんな福祉畑を歩いて
きた私にできるのは、『ありのままがいい』
という安心感を伝えることかなと思っています」。

現在は、スイモンの実店舗を開き、「ち
らちら」という3人のユニットで新潟市内を中
心に「筆談カフェ」などの新たな活動をして
います。

「筆談カフェは、『話す』ことをやめてみ
るとちょっと不思議な感覚になる、というこ
とを耳の聞こえる人にも体感してもらおうん
です。その感覚が、違う感覚を面白いと思うん
どや、違う誰かを想像することにつながると
思っています」と、中嶋さんは企画の意図を
語ります。「みんな同じとか平等を目指すの
ではなく、違いを楽しんだほうが、人と人
との壁はなくなるのでは」と感じています。

今後は「もっと福祉の現場に入っていくこ
うかなと思っています。今までは比較的外から
お手伝いしてきたので」と、新たな活動を模
索中。「福祉に関わる人や空気が好き」を軸
に、中嶋さんの活動は広がっていきます。

中嶋さんの記事全文はこちらから読めます



インタビューでは紹介しきれなかった、様々な仕事をしている4人の社会人3～10年目の先輩たちにも質問に答えてもらいました!

もっと知りたい!
新潟で生きる
先輩たちに
聞いてみた

新潟市出身の35歳。大学は神戸でした!
今はシステムの設計や製造(プログラミング)を行う仕事をしています。
新潟駅の近くの一軒家で夫と子供と3人暮らしています。
趣味は海外ドラマをぶっ通しで見ること。

株式会社インプレッジ
ひらかたゆうこ
平方裕子さん



学生時代にやってよかったことはなんですか?

イギリスに留学したことです!度胸がきました。今でも何かに挑戦するとき、その経験を思い出すと力が湧きます。

子育てと仕事の両立は大変ですか?

今、子供は2歳。産休・育休をとって職場に復帰しました。子育てしながらの仕事は容易ではありませんが、会社の理解もあり、周りの方に助けていただきながら充実した日々を送っています。ワーキングマザーが働きやすい職場は増えてきていると思います。

仕事や住む場所を決めるとき、大事にしたことはなんですか?

仕事に関しては「楽しめること」。楽しくなければ続かないと思うからです。住む場所に関しては、両親など大切な人の近くにいられることを重視して決めました。

新潟市の好きなところと、よく行くお店を教えてください

すごく都会でもなく、すごく田舎でもない、ほどほどなところが好きです。よく行くお店は、「まるしん」「コトブキ」「まっくうしゃ」と全てラーメン屋です(笑)

東京海上日動
火災保険株式会社
ほんまみなみ
本間南さん



新潟市出身の27歳、新潟大学教育学部を卒業し
今は東京海上日動で損害保険の代理店支援
の営業をしています！趣味はバスケットボールなど
身体を動かすことで、新潟の好きなお店は「茶趣茶楽」
という台湾料理屋さんです。



新潟市でどんな暮らしをしていますか？

一人暮らしをしています。自分の収入の中でのやりくりは大変なこと
もありますが、仕事とプライベートの両立の面で、**自分のペース**
で生活できるのが好きです。食生活がどうしても不規則になりがち
ですが、体調を崩さないよう、**毎日朝食はしっかり食べる**ようにし
ています。

進路を決めるとき大事にしたことはなんですか？

自分の趣味ややりたいこと（仕事でもプライベートでも）がなるべ
く我慢せずにできる環境かどうかです。私は、やりたいことができ
ない環境では、ストレスが溜まり長く継続できないと考えているの
で、「**自分はこういう生活がしたいのか**」「**そのためにはどうい
う環境を選んだらいいのか**」を大事にしています。
今の仕事では多種多様な本業を持つ方と出会えて視野が広がった
り知識が増えたりするところがたのしいです。

自分が子供を育てたり家族をもつことについてどうい
うふうに考えていますか？

将来的には、仕事をやりつつ子育てをしたいと思っています。就職
活動のときにも、**会社選びの要件として「家庭を持って働き続け
られること」を挙げていました**。今の会社には、産休育休をとって
いる人が実際にいるのでイメージが湧きやすく、そこに関して満足
のいく会社で働いているなと感じます。

新潟市の好きなところともう少し変わってほしいとこ
ろは？

車があればどこでも行けて住みやすいところです。遊んだり友達を
招待する面言えば、観光地や遊べる施設が増えたら嬉しいです。